

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第78号

2016年10月1日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. 2016年度オーストラリア学会第27回全国研究大会と第9期理事会を終えて

第9期代表理事 福嶋輝彦

6月11日に初めて和歌山大学を訪れた筆者を待っていたのは、眼下に和歌山港を見下ろす一方で、緑に囲まれた自然豊かなキャンパスでした。そこでお会いすることができた同大観光学部長の藤田武弘先生は、和歌山大学が観光を旗印に世界に向けて盛んに発信し続けていることを、熱く語ってくださいました。

こうして同日午後から、天井や壁が木製で正に「きのくに」の名にふさわしい観光学部多目的ホールで幕開けされた大会は、「出会い」という言葉が名実ともにふさわしい内容になりました。冒頭に遠路東京より初めて大会に参加いただいたバッシム・ブレイジー豪大使館政務担当公使にご挨拶をいただいた後に、東京大学のマリア・ニュージェント客員教授からは、大英博物館での白人が初上陸時に先住民と遭遇したときの遺留品展示という、究極の「出会い」を採り上げた特別講演が披露されました。

それに続くシンポジウムでは、オーストラリアにおけるツーリズムの様々な側面を、捕鯨とホエールウォッチング、先住民、シドニーのLGBTといった、ユニークな角度から採り上げた報告がありました。討論者も含めて発表者4名のうち3名が和歌山大学の日本人教員であった一方で、発表3本が英語で行われた点に、ホスト校の特色が色濃く出ていて感じました。

翌12日の日曜日午前には、恒例の会員による地理・医療・外交・先住民といった多様な分野にまたがる一般報告が、2分科会で5本提示されました。さらに『最後の真珠貝ダイバー藤井富太郎』の出版記念特別企画では、木曜島からお越しいただいた10数名の藤井氏のご家族・関係者の方々から、お話しをいただきました。さらに戦前和歌山県からオーストラリアに移住し、今はカウラの日本人墓地に眠られる村上安吉氏の写真展がもう1つの特別企画として学内で開催されていたのですが、藤井一族の企画に村上氏のご家族の方が駆けつけるといって、世紀を越えた「出会い」を目撃することもできました。

午後には総会を経て、豪北部海域における人の移動に関するシンポジウムで、オーストラリアからの発表者2名を含む4本のプレゼンと2名からの討論が交わされ、この水域では、古来洋上を人々が自由に行き交っていたこと、次第に政府の国境管理との軋轢が生じてきたことが、1950年代の沖縄からの契約労働者、日本船のアラフラ海出漁、ボートピープル規制といった側面から時代横断的に考察されました。こうして様々な「出会い」に満ちた大会を無事に幕引くことができたのも、ホスト校のロジスティクス担当者として会場で獅子奮迅の働き一方で、土曜日のシンポジウムなど地元色を生かした独創的な企画を進めていただいた、吉田道代会員の献身的なご尽力に負う所が大きく、心より拍手を送りたいと思います。

筆者の第9期代表理事としての学会との「出会い」も、これで最後となります。3年前に突如大役と「出会った」筆者は何も準備もなく、つなぎ役に徹してきました。それでも第8期理事会が敷いてくれた国際交流や優秀論文賞という新たな試みを実現に導くことができました。これも今回の大会を含めて寛容な助成をいただいた豪日交流基金のご支援の賜物と、学会を代表して厚くお礼申し上げます。また筆者を支え続けてくださった第9期理事会の方々、特に運営委員会で多大なご協力をいただいた川口章・永野隆行・飯笹佐代子・塩原良和の4会員には深い感謝の意を捧げたいと思います。最後に日曜の総会では、第10期理事会の陣容が承認されましたが、そこでは午後のシンポジウムの企画を務められた鎌田真弓会員が新代表理事に選出されました。鎌田代表理事の下でオーストラリア学会が一層の飛躍を遂げるであろうということを確認しつつ、これで代表理事からのご挨拶とお礼の言葉に代えたいと存じます。3年間のご支援を誠にありがとうございました。

2. 代表理事就任ご挨拶

第10期代表理事 鎌田真弓

本年6月に第10期理事会が発足し、福嶋輝彦先生の後任として代表理事を拝命いたしました。2012年に改

正された会則での2回目の役員改選で、9名が第9期理事会より継続、3名の理事経験者とともに8名の若い理事に加わっていただき、本学会の運営をして参ります。

歴代の代表理事のもとでは、本学会の発展のために様々な取り組みがされてきました。第6・7期代表理事の関根政美先生は若い研究者の発掘のための関西・関東例会の開催や豪日交流基金の助成による公開講演活動、第8期有満保江先生は会則の改正や国際学会の開催、前任の福嶋輝彦先生は学会優秀論文賞の立ち上げと学会誌投稿論文の審査基準の厳格化、さらに学会ウェブサイトの充実など、活発な学会活動を維持するための努力が続けられてきました。こうした先達の熱意を継承し、さらなる発展を遂げられるよう、次の三つの目標を掲げて私も尽力いたす所存です。

まず、引き続き、開かれた学会運営を行い、会員の皆様が活躍できる場を提供したいと思います。特に若い研究者には、研究活動はもちろんのこと、学会運営にも積極的に関わっていただけることを期待いたします。第二に、国際的な学会活動を目指します。会員の国際的な学術交流ができるような支援も視野に入れて、海外のオーストラリア研究学会との連携を深めたいと思います。第三に、オーストラリアに関するマルチ・ディシプリナリーな研究活動の場という創立以来の精神を大切にして、多角的な視点からオーストラリアにアプローチするためにも、他の地域研究学会との交流を進めたいと考えます。

こうした活動を行うためにも、会員の皆様にはアイデアをお寄せいただき、研究大会・地域研究会やシンポジウムなどへの積極的なご参加をお願いいたします。最後になりましたが、第9期でご退任の理事の方々に、そのご尽力に対して心よりお礼申し上げます。

3. 総会報告

日 時：2016年6月12日（日） 13:15～13:45

場 所：和歌山大学 観光学部棟 T101

議事次第

1. 代表理事挨拶
2. 2015年度一般会務報告
永野理事より、2015年度一般会務報告が行われた。
3. AJF事業
永野理事より、2015年度AJF事業報告が行われた。
4. 2016年度活動計画
永野理事より、2016年度活動計画が提案され、承認された。2017年の大会は、成城大学で開催する。
5. 2018年全国大会開催校募集
永野理事より、2017年度全国大会開催校募集が発表された。
6. 第10期理事・監事が選出された。
7. 2015年度決算案・監査報告
塩原理事より2015年度決算案が提出され、多田監事より監査報告が行われた。決算案が承認された。
8. 2016年度予算案
塩原理事より2015年度予算案が提出され、承認された。
9. 国際学会派遣事業に関しては、参加者の選考プロセスを事前に周知するよう会員から提案があった。

以上

4. 第9期第7回理事会議事録

日 時：2016年6月11日（土） 10:00～12:30

場 所：和歌山大学経済学部南棟1階107

出席者＝福嶋輝彦、花井清人、飯笹佐代子、川口章、三宅眞理、村上雄一、永野隆行、佐和田敬司、塩原良和、安田純子、吉田道代（以上、理事、ABC順）、多田稔（以上監事）

【報告】

1. 川口理事より、2015年度の一般会務報告があった。オンライン入会申込が開始された。

2. 永野理事より、2015年度の活動報告があった。
3. 飯俣理事より、2015年度の編集活動報告があった。学会誌掲載論文の検索データベースが、CiNii から J-STAGE に移行することが決定した。

【議題】

1. 塩原理事より「予算案策定に関する申し送り事項」が提案され、承認された。国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計は本年度より廃止し、一般会計に一本化する。
2. 塩原理事より 2015 年度決算案および 2016 年度予算案が提出され、承認された。
3. 永野理事より 2016 年度事業計画案が提出され、承認された。2016 年度（第 27 回）全国研究大会シンポジウム報告者の来日キャンセルのために発生した予算残額は、新たに計画する研究会に支出することが承認された。
4. 永野理事より 2016 年度 AFJ 事業計画案が提案され、承認された。
5. 2017 年の全国研究大会は、2017 年 6 月 17・18 日に成城大学で開催されることが承認された。
6. 7 名の入会と 6 名の退会（うち 3 名はみなし退会）が承認された。
7. 第 10 期理事・監事候補者名簿案が、提出され承認された。

以上

5. 第 10 期第 1 回理事会報告

日 時：2016 年 6 月 12 日（日） 12:00～12:30

場 所：和歌山大学 経済学部南棟 1 階 107

出席者：藤田智子、濱野健、花井清人、一谷智子、鎌田真弓、佐和田敬司、津田博司、堤純、吉田道代（以上、理事、ABC 順）、白江英司、多田稔（以上、監事）、福嶋輝彦（第 9 期代表理事）

【議題】

1. 第 10 期の代表理事、副代表理事として、下記の者を選出した。役員の役割分担に関しては、後述の役員一覧を参照。
 鎌田真弓（代表理事）
 花井清人（副代表理事）
 加藤めぐみ（副代表理事）
 佐和田敬司（副代表理事）
2. 代表理事、副代表理事、会計担当理事をメンバーとして理事会運営委員会を設置することが了承された。
3. 福嶋輝彦第 9 期代表理事から、第 9 期からの申し送り事項として、以下の通り報告があった。(1) 国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計を一般会計に繰り入れ、予算決算を一本化する。(2) 本年 11 月 17-18 日に開催される F A S I C 4（中国広東省中山大学）への本学会からの参加依頼があった。第 10 期理事会が参加者を選考の上、必要に応じて国際学会派遣事業費予算から旅費等を助成するなどの対応を検討願いたい。

6. 新理事・副代表理事役割分担表（2016 年 6 月～2019 年 6 月）

[代表理事] 鎌田真弓

[副代表理事(総務)] 花井清人

[広報・会報担当理事] 友永雄吾、濱野健

[HP 担当理事] 津田博司

[庶務担当理事] 山内由理子

[副代表理事(企画)] 佐和田敬司

[全国研究大会担当理事] 長友淳、吉田道代

[プロジェクト担当理事] 堤純、藤田智子

[副代表理事(編集)] 加藤めぐみ

[学会誌担当理事] 青木麻衣子、一谷智子、馬淵仁、三宅眞理

[会計担当理事] 石井由香

[関東例会担当理事] 佐和田敬司、津田博司、藤田智子、山内由理子
 [関西例会担当理事] 友永雄吾、長友淳、南出眞助
 [監事] 白江英司、多田稔
 [本部事務局員] 藤岡伸明

7. オーストラリア学会財務諸表

2015 年度決算

貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日現在

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	2,623,129	4,027,365	△ 1,404,236
郵便振替口座	1,701,818	206,920	1,494,898
流動資産合計	4,324,947	4,234,285	90,662
資産合計	4,324,947	4,234,285	90,662
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	40,000	21,000	19,000
未払金	322,033	304,560	17,473
流動負債合計	362,033	325,560	36,473
負債の部合計	362,033	325,560	36,473
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	3,962,914	3,908,725	54,189
正味財産合計	3,962,914	3,908,725	54,189
負債及び正味財産合計	4,324,947	4,234,285	90,662

正味財産増減計算書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	1,001	918	83
②受取会費	1,469,000	1,490,000	△ 21,000
③雑誌販売収益	10,468	23,320	△ 12,852
④大会補助金	171,974	0	171,974
⑤その他	17,000	18,000	△ 1,000
経常収益計	1,669,463	1,539,238	130,225
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰出金	0	0	0
国際会議派遣事業費・学会賞事業特別会計積立金	150,000	200,000	△ 50,000
事業費計	250,000	300,000	△ 50,000
②管理費			
印刷費	325,624	345,642	△ 20,018
会議費	35,820	50,382	△ 14,562
消耗品費	38,880	3,549	35,331
通信費	112,078	130,182	△ 18,104
業務委託費	852,872	465,842	387,030
雑費	0	0	0
管理費計	1,365,274	995,577	369,697
経常費用計	1,815,274	1,295,577	319,697
当期経常増減	54,189	236,661	△ 182,472
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減	0	0	0
当期一般正味財産増減	54,189	236,661	△ 182,472
一般正味財産増減	3,908,725	3,672,064	236,661
一般正味財産期末残高	3,962,914	3,908,725	54,189
正味財産期末残高	3,962,914	3,908,725	54,189

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

収支決算書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,001	△ 1
②受取会費	1,500,000	1,469,000	31,000
③雑誌販売収入	20,000	10,488	9,512
④大会補助金	0	171,974	△ 171,974
⑤その他	150,000	17,000	133,000
経常収益計	1,671,000	1,669,463	1,537
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰出金	150,000	0	150,000
国際会議派遣事業費・学会賞事業特別会計積立金	150,000	150,000	0
事業費支出計	400,000	250,000	150,000
②管理費			
印刷費	376,000	325,624	50,376
会議費	100,000	35,820	64,180
消耗品費	20,000	38,880	△ 18,880
通信費	100,000	112,078	△ 12,078
出金	15,000	0	15,000
業務委託費	620,000	852,872	△ 232,872
学会賞商品購入費	30,000	0	30,000
雑費	10,000	0	10,000
管理費支出計	1,271,000	1,365,274	△ 94,274
事業活動支出計	1,671,000	1,615,274	55,726
事業活動収支差額	0	54,189	△ 54,189
II. 投資活動収支の部			
0	0	0	
III. 財務活動収支の部			
0	0	0	
IV. 予備費支出の部			
0	0	0	
当期収支差額	0	54,189	△ 54,189
前期末繰越収支差額	3,908,725	3,908,725	0
次期末繰越収支差額	3,908,725	3,962,914	△ 54,189

特別会計

国際学会派遣事業費・学会賞事業特別会計

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

収入			
前期繰越金		513,465	
一般会計繰入金		150,000	
			663,465
支出			
学会賞賞品・賞状等費用		20,755	
会員国際学会派遣費用		227,250	
			248,005
収支差額			415,460

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

平成 28 年 月 日

㊟

㊟

財産目録（総括表）
平成 28 年 3 月 31 日現在

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	平元保管		0
		普通預金	運転資金として	2,623,129
		ゆうちょ銀行口座		2,623,129
		郵便振替口座	運転資金として	1,701,818
		郵便振替口座		1,701,818
		国際学会派遣事業・学会賞事業(ゆうちょ銀行)	国際学会派遣・学会賞事業のため	415,460
流動資産合計				4,740,407
資産合計				4,740,407
(流動負債)	未払金			322,033
		前受会費収入	翌事業年度以降会費	40,000
流動負債合計				362,033
負債合計				362,033
正味財産				4,378,374

2016 年度予算案

オーストラリア学会 2016 年度収支予算書
平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,000	0
②受取会費・入会金	1,470,000	1,500,000	△ 30,000
③雑誌販売収入	10,000	20,000	△ 10,000
④特別会計からの繰入	415,460	0	415,460
⑤その他	14,000	150,000	△ 136,000
経常収益計	1,910,460	1,671,000	239,460
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰出金	150,000	150,000	0
国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計積立金	0	150,000	△ 150,000
国際学会派遣事業費用*	300,000	0	300,000
事業支出計	550,000	400,000	150,000
②管理費			
印刷費	330,000	376,000	△ 46,000
会議費	50,000	100,000	△ 50,000
消耗品費	40,000	20,000	20,000
通信費	110,000	100,000	10,000
雑金	10,000	15,000	△ 5,000
業務委託費	550,000	620,000	△ 70,000
学会賞賞品購入費	0	30,000	△ 30,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,100,000	1,271,000	△ 171,000
事業活動支出計	1,650,000	1,671,000	△ 21,000
事業活動収支差額	260,460	0	260,460
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	0	0	0
当期収支差額	260,460	0	260,460
前期繰越収支差額	3,962,914	3,908,725	54,189
次期繰越収支差額	4,223,374	3,908,725	314,649

オーストラリア学会 2016 年度
国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計
(旧称・創立 25 周年記念事業特別会計)
収支予算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

収入			
前期繰越高線越		415,460	
積立金		0	
	計		415,460
支出			
一般会計への繰出		415,460	
繰越高線越		0	
	計		415,460
収支差額			0

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会 2017 年度総会・全国研究大会は、6 月 17 日(土)・18 日(日)の両日に、成城大学で開催される予定です。(詳細は会報次号 [2 月発行予定] でお知らせいたします。)
個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11 月末日までに、学会事務局あて書面(メール可)にてお申し込みください(200 字程度の要旨を添付してください)。

8. 第29回全国研究大会開催校および企画募集

2018年度(2018年6月)オーストラリア学会全国研究大会の開催校、ならびに企画を募集しております。

大会開催、もしくは企画にご協力くださる会員の方は2016年11月末までに、佐和田敬司(企画担当副代表理事、ksawada@waseda.jp)までご連絡ください。なお企画については、豪日交流基金(AJF)助成金対象事業として助成金を申請する予定です。オーストラリアの研究者を日本にお呼びして学術交流を行う良い機会となりますので、ご関心のある方は是非ご連絡下さい。

9. オーストラリア学会 第23回地域研究会(関西例会)のお知らせ

※事前申し込み不要、非会員の方も参加できます。

日時:2016年10月15日(土)14:00~17:00

場所:追手門学院大学図書館3F オーストラリア・ライブラリー

*当日、オーストラリア関係のリサイクル本を無償配布します。

連絡先:〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学国際教養学部 南出眞助 minamide@otemon.ac.jp

*この催しについては、追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所に問い合わせないでください。

交通:JR茨木駅西口から南へ徒歩7分「イオン茨木ショッピングセンター」横、または阪急茨木市駅西口から追手門学院大学スクールバス、13:00発をご利用ください。

*大学到着後は、バス降り場から正面歩道突き当りの5号館エレベーターで5Fに上がり、渡り廊下を出て左側、図書館のカウンター横から3F「オーストラリア・ライブラリー」へとお進みください。

<キャンパス・マップ> <http://www.otemon.ac.jp/campusmap/index.html>

発表①「オーストラリア英語の特徴はどのように残って/消えていくのか」

貞光 宮城(追手門学院大学)

オーストラリア英語は、その特徴を急速に失いつつあるといわれる。一方で、そうではないと主張する向きもあり、ごく最近発行された辞書や用語集でも、その特徴的な用法として多くの項目(表現)が記載されている。拙稿(2016)では、虚辞代名詞 she に焦点を当て、現代の口語用例を集めた複数のコーパスを分析し、その現状を調査した。その結果、日常会話ではほとんど自由には使われていないことを示した。本発表では、この特徴が消えていく要因とかがろうじて残っている要因について考えたい。

発表②「オーストラリア学会地域研究会(関西例会)の回顧と展望」

南出 眞助(追手門学院大学)

2005年に始まった関西例会は、分野や世代を超えた研究者・大学院生の討論、情報交流の場として活動を重ねてきた。今回は過去の発表者に集まってもらい、オーストラリア研究の近年の動向や今後の新たな可能性について意見交換を行う。

10. オーストラリア学会 第11回地域研究会(関東例会)のお知らせ

※事前申し込み不要、非会員の方も参加できます。

日時:2016年11月12日(土)15:00~18:00

会場:早稲田大学・早稲田キャンパス(教室未定:オーストラリア学会ウェブサイト上で告知します。)

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩5分

<http://www.waseda.jp/campus/waseda.html>

連絡先:佐和田敬司(早稲田大学) ksawada@waseda.jp

共催:早稲田大学オーストラリア研究所

要旨:「地域性を超えたサステナブルなオーストラリア研究とは」

早稲田大学オーストラリア研究所では2017年に論文集『サステナビリティ・サイエンスとオーストラリア研究:地域性を超えた持続可能な地球社会への展望』(仮題)の刊行を目指している。これまでの地域研究は、地域に根差した課題検証型が主流であった*。しなしながら、これからは*サステナビリティ学の基本フレームワークである、「人間の生存を保障する基盤」である“地球システム(global system)”,「人間が(生存に加えて)幸福な生活を営むための基盤」である“社会システム(social system)”,「健康・安全・安心・生きがいを保障するための基盤」である“人間システム(human system)”という、三つのシステ

ム間の相互作用を応用しながら、超学的な課題解決を目指す必要がある。本書は十人余の執筆陣による多様なテーマでこの問いに取り組んでいる。

本例会では、同書に寄稿する執筆者陣の中から、原田容子（オーストラリア研究者）、多田稔（近畿大学）が登壇して担当したチャプターの内容を発表し、編集代表の宮崎里司（早稲田大学）がディスカッサントとしてそれらの内容を「サスティナビリティ」という大テーマにどのように位置づけるか、議論をする予定である。

1 1. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払いの年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2016 年 5 月に年会費を納入しても、2015 年度未払いの場合、それは 2015 年度の会費となります。すなわち、2016 年度は未納ということになります。また 2014、2015 年度未払いの場合、2014 年度分の会費納入になります。

<2015 年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2015 年度を含め最多 3 か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2016 年 3 月発行、第 29 号）までをお送りしております。事務局では 3 か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

1 2. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、30 号への投稿につきましては原稿締切を、11 月 5 日に延長します。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・加藤 (kato@sw.meisei-u.ac.jp) にご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、もしくは会報 29 号掲載の「投稿要領」（2011 年 12 月 11 日一部改訂）をご参照ください。

第 30 号の刊行は 2017 年 3 月を予定しています。次の 31 号の投稿締め切りは 2017 年 8 月 31 日です。30 号・31 号に掲載された論文は「第 2 回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは 29 号（2016 年 3 月刊行）掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2016 年 10 月 30 日です。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだ CD もしくは USB）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

1 3. 新刊書のご案内

リンダ・マイリー（著）『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』青木麻衣子・松本博之・伊井義人（訳）時事通信出版局（2016 年 5 月刊行／その他判／128 ページ／1800 円＋税）

オーストラリアの最後の日本人真珠貝ダイバー、藤井富太郎氏の生涯を、当時の時代背景とともにまとめたものです。個人所蔵の写真も多く掲載しており、記録資料としてもご覧いただけます（訳者紹介より）。

Belinda Wheeler (ed.), *Companion to the Works of Kim Scott*, New York: Camden House. (June 2016, 3 black and white illustrations, 202 pages, 9x6 in, £60.00)

New essays on the acclaimed Australian Indigenous author's entire body of work, including his novels, short stories, poetry, and his work with Indigenous language and health. (出版社紹介より)

Arimitsu, Yasue & Suzuki, Yuga (eds.), *Contemporary Australian Studies: Literature, History, Film and Media Studies in a Globalizing Age*, Tokyo: Otowa-Shobo Tsurumi-Shoten. (2016年6月刊/A5判上製/151ページ/2,500円)

2012年に同志社大学で開催された国際シンポジウム「グローバル化時代における文学、歴史、映画そしてメディア」の発表をもとにした論文集。

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付
TEL 03-3482-9403 E-mail: khanai@seijo.ac.jp
会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力 : 藤岡伸明 (法政大学)]